



花き生産者への支援について

全国の中でも、花の産出額が全国第3位の生産県として、わが福岡県の花の需要の創出についてであります。

先々月に、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、県内の花き関連の事業者、物流業者のかたから相談を受けました。



卒業・入学式・歓送迎会や様々な会合や式典で、花や花束・コサージュなどが最も使われるという、年度替わり前後で、さらには、母の日も5月に迎える中、このような新型コロナウイルス感染症のため、極端に売り上げが下がる状況で、最悪の状態、どうにかならないだろうかとの内容でした。

同行した国会議員からは、国会の中でも施設の中や、議員が生花を身に着ける運動を進めていくとの話もありました。

その後、さっそく、国会では安倍総理や山口代表が花を胸にしていたようです。

また、先日、福岡県花き農協の代表にもお会いしましたが、本県では、平成15年度から、県を中心に、生産者や、花き関連団体が一体となり「花あふれるふくおか推進協議会」を設立し、「ふくおかの花」のPRを強化することにより、花き産業の、より一層の振興を目指していると聞いております。

その結果として、全国でも有数の花き産地に成長したものと考えております。

しかしながら、緊急事態宣言は解除されたものの、有効な治療薬やワクチンがない状況下においては、以前の生活スタイルに戻るまでには、まだまだ時間がかかることも予想されます。

このため、今後も新型コロナウイルス感染症によるイベントの自粛や、葬儀の縮小などが続けば、本県の花き産業の振興にも大きな影響が出てくるのでは

ないでしょうか。

そこで、はじめに新型コロナウイルスの感染症拡大による、花の販売不振など、花き生産者農家への影響について、知事の認識をお伺いいたします。

わたくしどもと致しましては、花の普及促進のために、県民の皆さんに周知を図るため、県の広報誌やホームページなどに、「今月の花」などのタイトルをつけシリーズにして、掲載をしてはどうかと考えております。

また、県産花きのPRにつきましては、昨年度、福岡市内で開催された、「ふくおかフラワーフェア」は、大変に好評であったと伺いましたが、現在の状況の中では、このようなイベントを開催することができないことも考えられます。

本県では、新型コロナウイルス感染症に対する、花き農家への支援ということで、県産の花の需要を創出し、「花あふれるふくおか」を推進するため、企業や公共施設に花を飾る取り組みなどの支援策を打ち出し、予算が確保されていますが、すでに今月から取り組みが始まっている事業もあると思います。

そこで、知事に伺います。この花き生産者への支援策について、現在の取り組み状況はどうなっているのか、また、これからどのように進めていかれるのかお答えください。

【小川知事の答弁】

◆新型コロナウイルス感染症による花き生産者への影響について

本県は、キクやバラ、トルコギキョウなどの生産が盛んで、産出額が全国3位の花き産地です。

本年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、イベントの自粛や学校の臨時休校による式典の中止、葬儀の規模縮小が相次ぎ、花の需要期である3月に、市場価格が平年に比べ、1割程度下落しました。

また、4月7日に全国で緊急事態宣言が発令され、4月の市場価格は平年に比べ、さらに2割程度下落しています。

5月には「母の日」の需要や緊急事態宣言の解除があつたものの、いまだに市場価格は回復していません。

このように、花き生産者の経営は厳しい状況にあると認識しています。

◆花き生産者への支援策について

県では、花きの需要を創出するため、県庁ロビーで、アジサイやガーベラな

どの花を飾っています。

また、「福岡県ウェブ物産展」においても、こうした花の販売を行っており、今後、新たな品目を随時追加していく予定です。

花を飾る県内企業や市町村に対しても、その経費を助成することとしており、企業では、78社から申請があり、その約8割の企業で花が飾られています。

市町村の施設では、40市町村において、今月下旬から順次、地元産の花をPRすることとしています。

また、生産の継続を図るため、種苗や資材の購入経費を助成することとしており、JAを通じて、生産者へ周知したところです。

なお、国の2次補正においても、次の作付けに必要な支援が措置されているところであり、詳細が明らかになり次第、この支援策も活用してまいります。

県としては、このような取り組みを通じて、花き生産者が営農を継続できるよう、しっかり支援してまいります。